

シクリスムエコーNo.116 2005年2月号

UCIトラック・ワールドカップ第3戦…………… 2
 オーストラリアン・ユース・オリンピック・フェスティバル… 4
 JCFロードナショナルチーム遠征派遣選手団ほか…………… 5
 UCIトラック・ワールドカップ第4戦 速報! …………… 5
 2004 JCFトラック・タイム・ランキング…………… 6
 JCFロードナショナルチームの編成について…………… 7
 2005年UCIロード登録チーム…………… 8

2005年シクロクロス世界選手権



今回のコースは、ドイツ南西部にある、セントウエンデル市のスポーツ公園を使った1周2.8kmの非常に起伏に富んだコースでした。コースのほとんどが雪で覆われ、コーナーなどで転倒のリスクがあり非常に難しいコースでした。その一方で、路面が堅く締まっており、タイトなコーナーなどもなく非常にスピードに乗りやすい、高速コースでもありました。

1月29日(土)快晴ながら朝の気温はマイナス9度と非常に寒い中、午前11時にジュニアのレースがスタート。竹之内悠は2列目という大変好位置でのスタートから、1周目は14位の位置でコントロールラインを通過して、サポートするスタッフを大いに興奮させる走りでした。ところが2周目に転倒、ピットで自転車を交換したため2周目のコントロールラインは30位台で通過しましたが、その後じりじりと順位を上げ最後は25位でゴール。あまりの寒さに片目の視力が低下するという日本のレースでは想像もできない厳しい環

境の中での、堂々の成績でした。

午後は、U23に山本幸平が出場。U23も2列目の好位置でのスタートでしたが、転倒した際に外れたチェーンをはめるのに手間取り、4周目のコントロールライン手前でトップを走る

チェコのSTYBARに抜かれレースを終えました。

翌1月30日(日)11時スタートの女子レースに田近郁美選手が出走。初めての国際大会と、雪と凍った轍のコースに苦戦し、残り2周で単独でトップを行く地元ドイツのKUPFERNAGELに抜かれ結果は41位でした。

午後2時、雪が激しく降る中エリート男子がスタート。U23時代を含めると今年で5回目の世界選手権となる辻浦圭一は、昨年12月の全日本選手権3連覇を成し遂げその後、ワールドカップやナショナルレースに参戦し調子を上げてきており、今年は目標の30位台に手が届くかとの期待もありました。

エリートのレースは予想どおり、ベルギーのNIJSを中心に1周を約6分秒程度のハイペースでレースが進みました。残り3週の時点でトップとの差が約4分強となったが、このタイム差なら残りの周回数をラップされずにゴールできそうだと思われたところ、痛恨の前輪パンクに見舞われ、最終周

回でラップされマイナス1周の49位でのゴールとなりました。

レースを振り返り日本選手は皆良く健闘しました。エリート辻浦選手については着実に実力を付けてきており、トラブルがなければトップと4分強の差で完走できることが実証されました。また、ジュニア、U23、女子についても、ヨーロッパの自転車競技はコース、気候、周囲の選手のレベルと、どれをとっていても日本国内では経験できないレベルにあり、世界選手権までの間にもヨーロッパで何レースか経験を積む機会があれば更にその実力が発揮できるのではないかと感じました。

(監督 矢野 淳)

[競技結果]

2005年シクロクロス世界選手権大会
 (2005/1/29-30 ドイツ・ザントハウエンデル)

男子U17			
1	Nijs Sven	BEL	1:01:34.9
2	Vervecken Erwin	BEL	+0:02
3	Vanthourenhout Sven	BEL	+0:13
49	辻浦 圭一	JPN	-1laps
男子U23			
1	Stybar Zdenek	CZE	50:12.4
2	Simunek Radomir (Jr)	CZE	+0:21
3	Zahner Simon	SUI	+0:25
48	山本 幸平	JPN	-4laps
男子U27			
1	Malacarne Davide	ITA	38:52.5
2	Taramarcz Julien	SUI	"
3	Pfingsten Christoph	GER	"
25	竹之内 悠	JPN	+2:54
女子			
1	Kupfernagel Hanka	GER	41:42.5
2	Spitz Sabine	GER	+0:28
3	Melchers Mirjam	NED	+0:32
41	田近 郁美	JPN	-2laps

UCIトラック・ワールドカップ第3戦マンチェスター大会



JCFトラック強化チームは、ワールドカップ第3戦参加のため、正月気分も抜けない1月3日午後1時30分、マンチェスターに向け飛び立った。

12時間のフライトでロンドン・ヒースロー空港到着。国内線に乗り換え、同じ3日の午後8時マンチェスターに到着した。(時差9時間)

器材をピックアップし確認するが、クーラーボックス、毛布等の入った段ボール箱が未着のため、手続を済ませホテルに向かう。(ダンボールは翌日無事ホテルに届く)

9時10分ホテル着、長旅での疲労もあったので、部屋割りと夕食を済ませ、明日からのトレーニングに備え早めに休む。

1月4日、ベロドロームにおいて自転車を組み立て、初めてのトラックなので走路の特徴を掴みながら、体を慣らす為、軽めのトレーニングを行った。

『大会の行われるマンチェスターベロドロームは、マンチェスタースポーツシティ(総合運動公園)の中にあって、一周250m、板張り、最大斜度41度の癖もなく走りやすいトラックで好記録が期待される』

1月5日、前日に比べ若干強度を上げる。チームスプリントのコンビネーショントレーニング等も行った。

1月6日、明日からのレースに備え、実戦を想定したトレーニングを実施。ライセンスチェック、監督会議を終え、夕食後チームミーティング。

1月7日(大会初日)

今回の大会は最終日に国際グランプリケイリンが開催される事から、競技スケジュールが前2戦から大幅に変更

された。

ケイリン予戦

1組 渡邊 一成 7位

Wカップ・ケイリン初出場の渡邊は1回戦、先行を主体とした作戦で臨むが1組出場のため他のレースを参考にすることが出来ず、ぶっつけ本番のレースとなった。スタートは中団を狙ったが、5番手で外のウィリアムス(ニュージーランド)と並走になる。我

慢できず1車下げ6番手で周回を重ね、ペーサー退避後5番手ウィリアムス、6番手渡邊同時に仕掛けるが、先行位置のウォルフが先行体勢に入ってペースを上げたため、外、外を回され前に出られず力尽き7着となって、敗者復活戦に望みを繋ぐ。

ケイリン敗者復活戦

1組 渡邊 一成 落車棄権

敗者復活戦は1番手でスタートから先行位置を譲らず。ペーサー退避後ラスト2周でペースを上げ、マイペースでの先行逃げ切りを図ったが、最終周ホームから3番手ウォルフが仕掛け、バックで渡邊を交わす。渡邊何とか2位を狙って2番手で粘るが、2センターでスリップ落車し、ほろ苦いケイリンデビューとなった。

4km個人追抜競走予選

内田 慶 4分38秒168 8位

目標タイムを4分30秒に設定し、前半はペース配分も良かったが後半ペースダウン。

1kmタイムトライアル

及川 裕奨 1分06秒236 10位

1kmタイムトライアルはスタート後、如何に早くトップスピードに乗せるかが、記録アップのカギとなる。及川は1周19秒356とスピードに乗れず、その後のラップも14秒台。ラストは16秒台に落ち込み目標とした1分4秒台には届かなかった。

スプリント予選

渡邊 一成 10秒564 10位

初めてながら落ち着いてスタートしたが、駆け出しが若干遅かった。

成田 和也 10秒677 12位

シリーズランキング1位の証、チャ

ンピオンジャージーを着用し最終走者でスタートしたが、意識過剰か助走スピードが上がらず、タイムにも影響。

スプリント1/8決勝

ヒート5 ムルダール 11秒299 成田

成田インスタート、徐々にペースを上げ先行逃げ切りを図るが、いつものようなスピードの切れ、粘り共に無く、ムルダールに交わされる。

ヒート7 クアアコフスキー 11秒054 渡邊

渡邊インスタート、2周目1センターでスローペースのため、渡邊スリップ落車。再レースは徐々にペースを上げ、最終ホームでクアアコフスキーが渡邊との間隔を空ける。同時に渡邊がスパートしゴールまで粘ったが寸前交わされる。

ポイントレース

内田 慶

ポイントレースは序盤から逃げ争いとなってペースが上がる。内田、我慢のレースとなるが、中盤、力尽きリタイヤ。

チームスプリント予選

成田 和也、渡邊 一成、及川 裕奨 46秒302 4位

このメンバーでは初めてのレース。コンビネーショントレーニングも出来ず本番をむかえるが、第1走成田が18秒354で飛び出すと、渡邊と及川は離れ気味で追走し2周目ホームで追い付く。2番手渡邊13秒785、3番手及川14秒163のラップでゴールしトータルタイムは46秒302。他チームのタイムも伸びず4位。

チームスプリント3・4位決定戦

成田 和也、渡邊 一成、及川 裕奨 46秒309 3位

3・4位決定戦はオーストラリアと対戦。0.3秒のタイム差があったが、オーストラリアが事後に控えたインターナショナル・ケイリンに備え体力を温存したため、日本チームが勝ちを拾った。救いは毎回勝ち上がり戦でタイムの低下が見られたが、ほぼ、同タイムで走り切る事が出来たことだ。

今回のワールドカップを振り返って見ると、スプリント選手にとって世界で戦いアテネ以上の結果を目指すためには、スタートのダッシュ力がカギとなる。如何に短時間でトップスピードに乗

オーストラリアン・ユース・オリンピック・フェスティバル2005



オーストラリアン・ユース・オリンピック・フェスティバルが、1月19日から22日までの4日間の日程で、シドニー郊外のDunk Gray Velodrome(室内木製250m)において開催された。この大会には、地元オーストラリアをはじめ、中国、ニュージーランド、ニューカレドニア、マレーシア、南アフリカなどから106名の選手の参加があり、日本からは昨年9月におこなわれた高体連強化指定選手選考会で好成績をおさめた男子9名と女子1名が参加した。

個人追抜競走

最初の決勝種目となった個抜では、室内競技場と前輪ディスクの恩恵か、全員が自己ベストを3秒から6秒更新する健闘ぶりであった。そしてその中でも終始安定したラップを刻み、自己ベストを6秒も更新した土屋が3分32秒592の好タイムで5位となった。

1kmTT(500mTT)

ベストタイム1分6秒台の実績を持つ片折の記録更新に期待をかけたが、前走者が出した好記録に力が入り過ぎたのか、後半失速して7秒台の記録に留まった。1位～3位をオーストラリア勢が独占し、その後に4位～8位を日本勢が占めた。

スクラッチ・レース

決勝に進出した阿部と石倉は、前半は阿部が集団の前で動き、後半は石倉が前で動く作戦に出た。そして阿部も石倉も積極的に良く動いたが逃げは成立せず、レースはゴール勝負の展開となった。ゴールでは石倉が果敢に2周

の逃げ切りを試みたが、惜しくもゴール前に集団に捕まり6位。そして逆に後方の集団からすばらしい追込みを見せた阿部が2位に食い込んだ。

スプリント・レース

予選の200mTTでは片折が11秒314で3位、中野が11秒360で4位であったが、両名とも準決勝で予選1位、2位のスコット、ダニエルのオーストラリア勢に敗れて、3-4位決定戦に出場することになった。ハロソタイムでも負けているが、決して先行を許さない高度な操舵テクニックにも翻弄されてしまった。

ポイント・レース

予選において、土屋、石倉が相次いで落車するというアクシデントがあり、決勝へ進んだのは安福のみであった。しかし安福はこの日、ケイリン敗者復活戦、ポイントレース決勝、ケイリン決勝と、自転車を降りる間もなく、立て続けに3つのレースをこなさなければならない状況となり、ケイリン決勝に照準を合わせてこのレースを途中棄権した。

ケイリン

ケイリンは予選各組8人中1位のみが決勝へ、2-4は敗者復活戦へ、そして敗者復活戦は各組6人中1位のみが決勝へというルールで行われた。いずれにしても1位のみしか決勝に残れないという厳しいものであった。日本勢は片折が予選1位、安福が敗者復活1位で決勝へ駒をすすめた。決勝では安福がラスト2周から積極的に先行策をとり、3着でゴールを駆け抜けたが、後方から追込

みに回った片折は、良いところが無く4着に沈んだ。この種目は、いずれのレースも積極的にレースを展開した選手が好成績を残す結果となった。

チームスプリント

メンバー編成は、1番手中野、2番手我妻、3番手片折で挑んだ。予選では48秒697のタイムで1位通過であった。しかし決勝では1kmTT及びスプリントのそれぞれ1位2位を擁するオーストラリアチームが実力を発揮し、48秒121の好タイムを叩き出して優勝した。日本チームも走りを改善し、予選タイムを上回る48秒551を記録したが及ばなかった。

連日30℃を超える猛暑の中と、過密なレーススケジュールでコンディショニングがたいへんであったが、選手たちはよく健闘した。また日本では今の時期はオフシーズンであることも考慮すると、記録の面でもまずまずの結果を残すことができたと言える。また不慣れな250mバンクを走り、世界選手権と同様のレーススケジュールをこなし、そして世界の上位選手と対戦し、選手1人1人がそれぞれ自分の取り組むべき課題を見つけることができたことは、今後のジュニア世界選手権に向けての大きな成果であった。

(高体連強化委員会 川口 敬二)

[競技結果]

2005年オーストラリアン・ユース・オリンピック・フェスティバル
(2005/1/20-22 オーストラリア・シドニー)

男子1kmタイムトライアル

1	Sunderland Scott	WA	1.05.854
2	Ellis Daniel	ACT	1.06.754
3	Rathbone Lackson-Leigh	NSW	1.06.765
4	片折 亮太	JPN	1.07.400
5	我妻 敏	JPN	1.07.755
6	土屋 壮登	JPN	1.08.298
7	中野 彰人	JPN	1.08.400
8	柁原 翔太	JPN	1.08.421
14	安福 洋徳	JPN	1.10.187
15	阿部 力也	JPN	1.10.278
16	石倉 龍二	JPN	1.10.976

男子スプリント

1	Sunderland Scott	WA
2	Ellis Daniel	ACT
3	片折 亮太	JPN
4	中野 彰人	JPN
6	我妻 敏	JPN
8	阿部 力也	JPN

男子3km個人追抜競走

1	Shea Darren	NZL	3.25.745
2	Meyer Cameron	WA	3.26.897
3	Gough Wesley	NZL	3.29.579
5	土屋 壮登	JPN	3.32.592
9	我妻 敏	JPN	3.34.335
11	角 令央奈	JPN	3.35.250
15	柁原 翔太	JPN	3.42.702

男子ケリソ

1	Ellis Daniel	ACT	
2	Hopkins Geoff	NSW	
3	安福 洋徳	JPN	
4	片折 亮太	JPN	
	梶原 翔太	JPN	予選敗退
	中野 彰人	JPN	予選敗退

男子スクラッチ

1	Rusli Amir Mustafa	MAS	11.42.7
2	阿部 力也	JPN	
3	Mclachlan Tyler	NSW	
6	石倉 龍二	JPN	
	角 令央奈		予選敗退

男子ポイントレース

1	Pearson Mitchell	NSW	29p
2	Meyer Cameron	WR	25p
3	Northey Michael	NZL	10p
	安福 洋徳	JPN	DNF
	土屋 壮登	JPN	予選敗退
	石倉 龍二	JPN	予選敗退

男子チームスプリント

1	WA,ACT (Page, Ellis, Sunderland)	48.121
2	日本 (片折・我妻・中野)	48.551
3	VIC,NSW (Desmares, Bolan, Rathbone)	49.589

女子2km個人追抜競走

1	Tomic Josephine	WA	2.32.892
2	Mapley Natasha	TAS	2.33.219
3	Buchanan Rushlee	NZL	2.35.888

女子500mタイムトライアル

1	Zhang Jianjian	CHN	37.292
2	Loutit Jennifer	ACT	37.587
3	Wright Hayler	QLD	37.831
15	早坂ありさ	JPN	41.079

女子スプリント

1	Zhang Jianjian	CHN	
2	Geng Haili	CHN	
3	Broad Bridgette	NZL	
14	早坂ありさ	JPN	

女子ケリソ

1	Wright Hayley	QLD	
2	Armstrong Skye-Lee	NSW	
3	Broad Bridgette	NZL	
	早坂ありさ	JPN	予選敗退

女子スクラッチ

1	Armstrong Skye-Le	NSW	
2	Meisel-Dennis	ACT	
3	Macleane Malindi	NZL	
	早坂ありさ	JPN	予選敗退

女子ポイントレース

1	Armstrong Skye-Lee	NSW	26p
2	Hume Jessica	NSW	16p
3	Sulzberger Grace	TAS	10p

2005年女子ダウンアンダー・サマー・ロード・シリーズ
派遣選手団

2005年ジヤロウグ・ツア(UCI2.2)(2005.2.22~24 オーストラリア・ジヤロウグ)
2005年UCI女子ロード・ワールド・カップ 第1戦(2005.2.27 オーストラリア・ジヤロウグ)
2005年ツア・オブ・ニュージ・ランド(UCI2.2)(2005.3.1~3 ニュージ・ランド)
2005年UCI女子ロード・ワールド・カップ 第2戦(2005.3.6 ニュージ・ランド・ウエイリントン)

選手団

監督 高橋 松吉(連盟強化コーチ)

スタッフ 荒井 文説

選手 沖 美穂・唐見実世子・森本 朱美・

嶋田 広子・宮崎 杏菜

JCFロードナショナルチーム
春期ヨーロッパ遠征派遣選手団

遠征期間 2005.3.1~5.5 活動拠点 南スイス・LUGANO

選手団

スタッフ 大門 宏(JCFロード・ナショナルチーム支援スタッフ)

選手 新保 光起・西谷 泰治・別府 匠(以上愛三工業)

飯島 誠(スミタラ・和・パ・ルイズ・ミ)

石田 哲也・岡崎 和也(以上 Team NIPPO)

福島 晋一・福島 康司・田代 恭崇・鈴木 真理・水谷 壮宏

清水 都貴・佐野 淳哉(以上アンカー)・狩野 智也

山本 雅道・土井 雪広・野寺 秀徳・品川 真寛(以上 Shimano)

UCIトラック・ワールドカップ第4戦速報!

2月18日から3日間、オーストラリア・シドニーでトラックワールドカップ第4戦が開催され、最終日のチームスプリントでは見事銀メダルを獲得した。

[競技結果]

2004-2005年UCIトラック・ワールド・カップ 第4戦
(2005/2/18-20 オーストラリア・シドニー)

Duncgray Velodrome: 周長 250m 屋内板張

男子1kmタイムトライアル

1	KERSTEN Ben	AUS	1:01.645
2	VELDT Tim	NED	1:02.615
3	PERVIS Franaois	FRA	1:02.711
5	及川 裕奨	JPN	1:04.545

男子スプリント

1	BOS Theo	NED	
2	DAJKA Jobie	AUS	
3	TOURNANT Arnaud	FRA	
5	渡邊 一成	JPN	
10	成田 和也	JPN	

男子ケリソ

1	BOS Theo	NED	
2	GANE Laurent	FRA	
3	BURAN Pavel	CZE	
6	渡邊 一成	JPN	

男子チームスプリント

1	FRA BAUGE, PERVIS, TOURNANT	44.837
2	日本 成田・及川・渡邊	46.526
3	AUS DAJKA, KERSTEN, LEONARD	46.267

2005ワールドカップ第4戦
派遣選手団

開催場所 オーストラリア・シドニー

派遣期間 2005.2.15~21

大会期間 2005.2.18~20

選手団

監督 ゲリー・ウェスト(JCFチームレクター)

コーチ 班目 秀雄(JCFコーチ)

梶山 祐司(JPCAコーチ)

メニツク 森 昭雄(JCFスタッフ)

マッサー 柳 浩史(JCFスタッフ)

通訳 増田恵美子(JCFスタッフ)

選手 及川 裕奨(JPCA岩手)

成田 和也(JPCA福島)

渡邊 一成(JPCA福島)



2004 JCFトラック・タイム・ランキング

<男子19歳以上>

万イグ 200m			
1	永井 清史	JPCA	10.211
2	成田 和也	JPCA	10.216
3	榊枝 輝文	JPCA	10.403
4	金子 貴志	JPCA	10.425
5	稲垣 裕之	JPCA	10.624
6	長塚 智広	JPCA	10.646
7	井上 昌己	JPCA	10.781
8	吉本 哲郎	JPCA	10.889
9	上吹越直樹	JPCA	10.890
9	河端 朋之	鳥 取	10.890
11	石橋慎太郎	JPCA	10.917
12	平原 康多	JPCA	10.944
13	川村 崇	東 京	10.953
14	伊勢崎彰大	JPCA	10.955
14	小林 能大	JPCA	10.955
16	山田 英樹	JPCA	10.991
17	松岡 健介	JPCA	10.998
18	鈴木 英介	JPCA	11.021
19	中澤 孝之	JPCA	11.076
20	屋良 朝春	沖 縄	11.079

1 km			
1	井上 昌己	JPCA	1:03.910
2	矢口啓一郎	JPCA	1:03.994
3	武田 豊樹	JPCA	1:04.290
4	及川 裕奨	JPCA	1:04.312
5	稲村 成浩	JPCA	1:04.344
6	荒井 崇博	JPCA	1:04.428
7	中川誠一郎	JPCA	1:04.944
8	村上 義弘	JPCA	1:05.089
9	神山雄一郎	JPCA	1:05.209
10	田中 弘章	JPCA	1:05.232
11	青森 伸也	JPCA	1:05.240
12	萩原 孝之	JPCA	1:05.505
13	佐々木雄一	JPCA	1:05.586
14	渡辺 十夢	JPCA	1:05.743
15	新田 康仁	JPCA	1:06.050
16	三宅 達也	JPCA	1:06.075
17	川村 崇	東 京	1:06.195
18	永井 清史	JPCA	1:06.315
19	内村 泰三	JPCA	1:06.463
20	浜田 浩司	JPCA	1:06.704

4 km			
1	内田 慶	JPCA	4:32.272
2	黒木 裕介	宮 崎	4:45.252
3	西村 行貴	熊 本	4:47.468
4	西谷 泰治	愛 知	4:48.127
5	太田 貴明	京 都	4:50.029
6	飯島 規之	JPCA	4:51.294
7	佐々木孝司	JPCA	4:51.670
8	明珍多久雄	福 島	4:52.895
9	原田 和明	JPCA	4:53.814
10	吉田 将成	岐 阜	4:54.167
11	佐藤 佑一	岩 手	4:54.534
12	五味 実	JPCA	4:54.550
13	中井 健二	JPCA	4:55.919
14	矢代 慎吾	富 山	4:56.227
15	片山 智晴	岡 山	4:56.771
16	大久保 聡	JPCA	4:57.090
17	三木 哲也	兵 庫	4:57.140
18	蛭名 洋平	青 森	4:58.330
19	鳥生 知八	JPCA	4:58.597
20	野井 正紀	JPCA	4:59.146

<男子19歳未満>

万イグ 200m			
1	新田 祐大	福 島	10.865
1	柴崎 淳	三 重	10.865
3	大西 祐	香 川	11.121
4	中村 健志	熊 本	11.140
5	高橋 紀史	秋 田	11.150
6	加美山隆行	宮 城	11.175
7	岸澤 賢太	埼 玉	11.238
8	中園 朋享	福 岡	11.361
9	高橋 和也	愛 知	11.367
10	山田 隼司	岐 阜	11.421
11	阿部 力也	宮 城	11.443
12	中野 彰人	和 歌 山	11.452
13	中川 慶一	千 葉	11.465
14	寺田 信彦	大 宮	11.476
15	和田 圭	大 宮	11.481
16	川上 和正	福 島	11.487
17	原田 泰志	新 潟	11.497
18	豊岡 哲生	佐 賀	11.514
19	村松 俊弥	山 梨	11.548
20	白鳥 佑	東 京	11.550

1 km			
1	早坂 秀梧	宮 城	1:06.493
2	菅田 壹道	宮 城	1:06.842
3	網谷 竜次	香 川	1:07.800
4	大西 祐	香 川	1:07.944
5	片折 亮太	埼 玉	1:08.669
6	神山 拓弥	栃 木	1:08.874
7	中野 慎吾	新 潟	1:09.328
8	我妻 敏	福 島	1:09.457
9	中川 慶一	千 葉	1:09.640
10	山田 隼司	岐 阜	1:09.750
11	山崎 将幸	秋 田	1:09.810
12	城 幸弘	山 梨	1:09.821
13	中野 彰人	和 歌 山	1:09.999
13	乾 庄平	滋 賀	1:09.999
15	中村 健志	熊 本	1:10.135
16	小谷 実	京 都	1:10.153
17	小川 幸樹	滋 賀	1:10.171
18	瀧野 勝太	群 馬	1:10.201
19	内村 純一	福 島	1:10.254
20	櫻村 恭柄	福 岡	1:10.272

3 km			
1	房州 輝也	福 島	3:37.931
2	川西 貴之	岐 阜	3:38.918
3	根本 哲史	秋 田	3:39.595
4	奥田 賢司	奈 良	3:40.170
5	若槻 彰隆	大 阪	3:41.918
6	田崎 裕也	福 島	3:41.969
7	稲吉 悠大	福 岡	3:42.446
8	辻中 国宏	京 都	3:42.724
9	菅田 壹道	宮 城	3:42.738
10	斉藤 雄介	山 形	3:42.941
11	土屋 壮登	埼 玉	3:43.198
12	西村 光太	三 重	3:44.543
13	山本 貴洋	福 岡	3:44.710
14	小川 達也	静 岡	3:46.753
15	日高 竜志	京 都	3:47.311
16	一ノ瀬 匠	佐 賀	3:47.840
17	須永 優太	福 島	3:47.960
18	川島 歩人	宮 崎	3:48.028
19	川本 琢也	岡 山	3:48.574
20	中村 光	千 葉	3:49.040

<女子19歳以上>

万イグ 200m			
1	太刀川麻也	茨 城	11.748
2	篠崎 新純	千 葉	12.060
3	大菅小百合	長 野	12.113
4	遠藤 友子	大 分	12.201
5	佃 咲江	北 海 道	12.490
6	埋田 麻衣	大 分	13.126
7	沼部早紀子	栃 木	13.140
8	加藤 尚恵	埼 玉	13.220
9	松永 舞美	香 川	13.405
10	永田 萌子	大 分	13.460
11	遠山 恵	岩 手	13.471
12	濱田 真子	東 京	13.530
13	伊東 静香	宮 城	13.670
14	大塚 沙織	大 阪	13.751
15	伊藤 史子	三 重	13.780
16	田島 理江	福 島	13.839
17	仁藤ひろみ	静 岡	13.890
18	花山 千宏	宮 城	14.428
19	堀 友紀代	神 奈 川	14.930
20	林 奈保美	神 奈 川	17.453

500m			
1	大菅小百合	長 野	35.045
2	遠藤 友子	大 分	37.062
3	太刀川麻也	茨 城	37.295
4	佃 咲江	北 海 道	38.008
5	篠崎 新純	千 葉	38.040
6	川満 佳子	熊 本	38.700
7	沼部早紀子	栃 木	40.369
8	平中あゆ美	岩 手	40.434
9	松永 舞美	香 川	40.506
10	田島 理江	福 島	40.614
11	濱田 真子	東 京	40.727
12	門脇真由美	大 阪	40.753
13	遠山 恵	岩 手	40.880
14	青木千江子	群 馬	40.929
15	加藤 尚恵	埼 玉	41.091
16	飯田 香里	埼 玉	41.176
17	三井 由香	兵 庫	41.204
18	大塚 沙織	大 阪	41.209
19	小野山恵美	愛 媛	41.588
20	玉城 さち	沖 縄	41.650

3 km			
1	中村 珠藻	奈 良	4:07.898
2	松永 舞美	香 川	4:10.615
3	村中恵美子	東 京	4:11.443
4	宮崎 杏菜	大 分	4:11.513
5	永田 萌子	大 分	4:11.836
6	唐見実世子	石 川	4:13.372
7	佃 咲江	北 海 道	4:13.456
8	許斐真由子	鹿 児 島	4:14.060
9	大塚 沙織	大 阪	4:14.534
10	森本 朱美	鳥 取	4:14.945
11	青木千江子	群 馬	4:15.630
12	小淵 千恵	群 馬	4:18.670
13	小野山恵美	愛 媛	4:24.071
14	中山 朋子	神 奈 川	4:24.270
15	濱田 真子	東 京	4:25.257
16	飯田 香里	埼 玉	4:26.133
17	堀 友紀代	神 奈 川	4:26.201
18	古川ひとみ	新 潟	4:29.253
19	前川 康子	奈 良	4:29.338
20	小谷 翠	愛 媛	4:30.240

<女子19歳未満>

70kg 200m

1	岡 希美	群馬	馬分	12.281
2	佐藤 美香	大分	熊本	12.846
3	牛島 愛	熊本	大分	13.000
4	石井 寛子	埼玉	馬分	13.010
5	森 智恵美	京都	大分	13.679
6	栗原 瞳	埼玉	熊本	13.820
7	平岩 悠子	京都	大分	14.351
8	早坂ありさ	宮城	大分	14.851

500m

1	岡 希美	群馬	馬分	38.479
---	------	----	----	--------

2	牛島 愛	熊本	大分	39.548
3	石井 寛子	埼玉	馬分	39.731
4	萩原麻由子	群馬	大分	39.966
5	佐藤 美香	大分	熊本	39.976
6	栗原 瞳	埼玉	馬分	40.067
7	早坂ありさ	宮城	大分	41.025
8	河端あゆみ	鳥取	大分	41.240
9	岸本紗也加	熊本	大分	41.287
10	高倉 実希	岩手	大分	41.525
11	福島 麻実	熊本	大分	41.612
12	川又 千裕	鹿児島	大分	41.673
13	岡田由佳子	愛知	大分	41.710
14	和田見里美	鳥取	大分	41.979
15	上野 左智	大分	大分	45.242

16	三嶋 花子	山形	香川	46.765
17	柿山 麻美	香川	香川	48.266
18	森 梨奈	香川	香川	52.176

2km

1	萩原麻由子	群馬	馬分	2:40.749
2	和田見里美	鳥取	玉取	2:48.835
3	石井 寛子	埼玉	玉取	2:50.350
4	栗原 瞳	埼玉	玉取	2:51.269
5	森 智恵美	京都	玉取	2:51.723
6	高倉 実希	岩手	玉取	2:53.814
7	早坂ありさ	宮城	玉取	2:58.333
8	河端あゆみ	鳥取	玉取	3:01.359
9	岸本紗也加	熊本	玉取	3:01.408

JCFロードナショナルチームの編成について

2005年1月1日から、UCIがロード競技の大幅なルール改革(プロツアーと大陸ツアー)を行いました。これまでとは違い、大陸別、国別ポイントランキングがロード部門の世界選手権の参加資格制度に直結し、参加枠の獲得に直接的な影響を与えることになり、2008年北京オリンピックの出場枠の設定に関しても同様の制度が設けられることが予測されます。

これに伴い、1月に、ロード競技ナショナルチームの編成にかかわる会議を開催し、その内容について2月の選手強化本部会において、ルール改革に際しロード選手の世界選手権の参加獲得枠と、将来を見据えた選手の長期育成を視野に入れた「ジャパン・ナショナルチーム・プロジェクト」を立ち上げることが了承されました。

そこで、選手についてはコンチネンタルチーム登録をしたチームと、有力選手を抱える実業団チームから実績が認められる、あるいは将来性を期待できる選手を選抜してチーム構成をして、世界のレースを転戦することになりました。

また、併せて国内外で活動できる支援スタッフの体制を整えることになりました。

スタッフ、選手及びスケジュールについては下記のとおりであります。

<スタッフ>

高橋 松吉(連盟強化コーチ)

<支援スタッフ>

SHIMANO-MEMORY CORP: 坂東 晃・今西 尚志、チームブリヂストン・アンカー: 浅田 顕

Team NIPPO: 大門 宏、ミヤタ・スバルレーシングチーム: 栗村 修

スミタ・ラバネロ・パールイズミ: 高村 精一、キナン CCD チーム: 三浦 恭資

愛三工業レーシングチーム: 中根 賢二

<強化指定選手>

福島 晋一・福島 康司・田代 恭崇・鈴木 真理・水谷 壮宏・清水 都貴・佐野 淳哉(以上アンカー)

狩野 智也・山本 雅道・土井 雪広・野寺 秀徳・品川 真真(以上Shimano)

別府 匠・西谷 泰治・新保 光起・盛 一大(以上愛三工業)

真鍋 和幸・岡崎 和也・橋本 健・石田 哲也(以上NIPPO)・柿沼 章・綾部 勇成(以上ミヤタ)

別府 史之(Discovery)・飯島 誠(ラバネロ)・橋川 健(キナン)

<暫定春期スケジュール>

2月22日 ~	ITA	トレーニングキャンプ
3月6日	UCI1.2 SUI	Giro del Lago Maggiore "GP Knorr"
3月13日	UCI1.2 SUI	Giro del Mendrisiotto
3月27 ~ 4月9日	UCI2.2 MAR	Tour du Maroc
3月28日	UCI1.2 ITA	Giro del Belvedere
3月29日	UCI1.2 ITA	GP Palio del Recioto
4月14 ~ 19日	UCI2.2 IRI	Kerman Tour
4月13 ~ 17日	UCI2.1 ESP	Vuelta Ciclista a Aragon
4月20 ~ 24日	UCI2.2 ESP	Vuelta Ciclista Internacional a Extremadura
4月27 ~ 5月1日	UCI2.1 ESP	Vuelta a Castilla y Leon
5月3日	UCI1.2 ITA	Coppa Citta' di Asti

JCF2005年長距離強化指定選手

女子エリート: 沖 美穂・森本 朱美・唐見実世子・嶋田 広子・萩原麻由子・宮崎 杏菜・永田 萌子

男子U23: 松村 光浩・谷垣 雄基・島田 真琴・蛭名 洋平

男子ジュニア: 角 令央奈・土屋 壮登・大園 健太・湯浅 徹

2005年UCIロード登録チーム

2005年UCIのロード改革により、世界のロードレースの枠組みが変わった。世界のレースカテゴリーも変り、**プロツアー**と呼ばれるツール・ド・フランスなどの最高クラスのレースが約30。その次が**コンチネンタル・サーキット**と呼ばれるもので、アフリカ、アメリカ、アジア、オセアニア、ヨーロッパの各五大大陸で行われる。日本からはシマノレーシングチームがオランダを本拠とするシマノメモリーコープとしてプロフェッショナル・コンチネンタル・チームに登録。その次にあたるコンチネンタル・チームには下記の5チームが登録した。(詳しくは、UCIウェブサイト www.uci.ch をご参照下さい。)

UCI プロフェッショナル・コンチネンタル・チーム

シマノメモリーコープ / SHIMANO-MEMORY CORP (SHM) Team Manager: SCHEPPINK A.J.

阿部 良之・土井 雪広・廣瀬 佳正・狩野 智也・野寺 秀徳・大内 薫・品川 真寛・辻 貴光・山本 雅道
BOS Marco・KEMNA Rudi・REINERINK Rik・SMINK Julien・TEN DAM Laurens・VAN DER WAL Eelke
VAN KATWIJK Alain (以上 NED)・SCHUMACHER Stefan (GER)

UCI コンチネンタル・チーム

チーム NIPPO / TEAM NIPPO (NIP) Team Manager: 大門 宏

橋本 健・池本 真也・石田 哲也・真鍋 和幸・岡崎 和也・山本 泰裕・DELLA TOMMASINA Daniele
DI SILVESTRO Lorenzo・RIBOLZI Guiseppe・RINALDINI Andrea・SILVESTRI Davide Daniele (以上 ITA)
DYBEL Wojciech・WIESIAK Mariusz (以上 POL)・FUS Lukas (CZE)

チームブリヂストン・アンカー / TEAM BRIDGESTONE ANCHOR (BGT) Team Manager: 浅田 顕

福島 康司・福島 晋一・井上 和郎・宮澤 崇史・水谷 壮宏・佐野 淳哉・佐野 友哉・清水 都貴・清水 裕輔
鈴木 真理・田代 恭崇

スミタ・ラバネロ・パールイズミ / SUMITA RAVANELLO PEARL IZUMI (RVN) Team Manager: 高村 精一

天笠 辰一・福士 達朗・堀内 武仁・飯島 誠・飯野 嘉則・木村 善久・中本ゆうゆう・米村 俊・米山 一輝

ミヤタ・スバル / MIYATA-SUBARU (MYT) Team Manager: 栗村 修

綾部 勇成・柿沼 章・三船 雅彦・水尾 和孝・森山 大知・中川康二郎・西村 拓也・高野 淳・津末 浩平

キナン CCD / KINAN CCD (KIN) Team Manager: 市川 雅敏

橋川 健・日置 大介・広瀬 学・小渡 健吾・三浦 恭資・中村 誠・数元 章・鈴木 太地
LEE HSU-FAN・PENG Kuei Shiang (以上 TPE)

(順不同)

インフォメーション コーナー

表彰

アテネ五輪、チームスプリントで銀メダルを獲得した伏見、長塚、井上の3選手に(財)日本プロスポーツ協会より第37回日本プロスポーツ大賞特別賞が贈られた。

また、長年にわたるプロスポーツ振興の寄与に対し本連盟岩楯会長にスポーツ功労者文部科学大臣顕彰が贈られた。なお、両表彰式は1月25日東京プリンスホテルで行われた。

連盟の動き (1月下旬～2月中旬)

- 1月17日 オーストラリアン・ユース・フェスティバル日本代表選手団出発 於:オーストラリア・シドニー(帰国 23日)
- 26日 シクロクロス世界選手権日本代表選手団出発 於:ベルギー・セントウエンデル(帰国 2月1日)
- 2月15日 平成16年度第6回常務理事会 兼 選手強化本部会
04-05 UCIトラックワールドカップ第4戦日本代表選手団出発 於:オーストラリア・シドニー(帰国 21日)
- 18日 平成16年度第4回財政部会
- 21日 第4回記念誌編纂委員会、第2回広報委員会



シクリスムエコー No.116 2005年2月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯 昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー

